

基調講演 1

学びにおける"1"の価値

~学校を、もっともっと「自由な場」にするために~

〔講師〕 寺田 拓真（広島県総務局付課長／元 文部科学省教育改革推進室専門調査官）



皆さん、こんにちは、寺田と申します。今日は、皆さま方と一緒に学び合えることをすごく楽しみにしていました。実は、朝に間に合わないから1泊させてもらうために、昨日、京都に入らせていただいて、四条烏丸を少し散策したんですが、京都は外国人観光客の数がすごいですね。広島も割と外国人観光客が多いですが、欧米系の方ばかりです。京都はアジアの人もすごく多いなと思って、少しびっくりしました。ただ、先斗町の高いお店に外国人の人たちが次々に入っていくのを見ながら、少し離れたところにある、なか卯やすき家で若者が寂しくご飯を食べている姿を見て、日本は大丈夫かなと少し心配になりました。

広島の教育について、皆さんはどのようなイメージがありますか。私は、もともと文部科学省の人間なのですが、文部科学省時代に「H2O」というある造語がありました。全国の都道府県の中で、教育上なかなか難しい地域のイニシャルを取って「H2O」と言います。このHの1つが広島県です。今はそんなことないと思いますが、広島県というのは平成10年に文部科学

省、当時は文部省から是正指導を受けた日本で唯一の都道府県です。是正指導が入る前、広島県の学校現場では「子供たちに学力を付けさせてはいけない」と言われていた時代がありました。というのはなぜかという、非常に苦しい困難な地域に住んでいる、困難な家庭に生まれた子どもたちがたくさんいる状況の中で、学校が学力を身に付けさせる対策をやり過ぎると格差が生まれるのではないかとということで、学力を身に付けさせるのではなく多様な個性を認めていきます。運動会で50メートル走をやらせると、走って行って、みんなゴールの前で並んで待っています。全員来たといって、みんなで手をつないでゴールインすると、みんなが1等賞になれるという教育を、30年くらい前に広島県で実施していました。

教育改革をやってくれという知事からの依頼がありまして、私は広島で教育改革をやりましたが、そのときに中心に据えたのが探究でした。ただ、ある大学の先生に言われたのは「広島は向かないね。広島で探究を中心とした教育改革は失敗すると思うけどな」といった話をされました。なぜかという、是正指導の後、非常に統制的で管理型の教育行政の仕組みを作り上げて、そして基礎学力の重視と進路実現の保証をすごくやってきたので、ともするとそれと探究がうまく相入れないのではないか、といった話があり、かなり試行錯誤をしてきた経緯があります。広島も全然完全なものではないという

か不完全だらけなんです。広島で何をやってきたのかというお話をさせていただいてもいいのですが、それだと「そんなこともあるのか」で終わってしまうと思いますので、今日はどちらかというとその根っこにあるもの、何を目指してやってきているのか、広島の教育改革は一体どういふところを目指しているのかをご紹介させていただきつつ、一部、個人的な見解を申し上げさせていただきます。と思っています。

(スライド2~4) まず、最初に自己紹介ですけれども、先ほど、ご紹介していただいたように、もともとは文部科学省に入っていて、教育改革の仕事をやっていました。広島に籍を移しまして、学びの変革推進課長をやっておりました。普通は出向で文部科学省から県に行くと3年くらいで帰るのですが、文部科学省を辞めまして、そのまま広島に残っています。学びの変革という教育改革をやったり、広島叡智学園をつくったりしました。高校生の海外留学もすごい人数で、私が着任した頃は70人くらいしかいなかったんですけれども、最終的には500人弱まで増やすこともやってきました。

立命館アジア太平洋大学にもご縁を頂いて、特別研究員をさせていただきました。ミシガン大学に留学をさせていただいて、今は県の課長もしながら、福山市という広島県内の第2の都市で教育改革の担当部長の仕事もさせてもらっています。

(スライド5) ミシガン大学はあまり知られていないかもしれませんが、アメリカではそこそこの有名な大学です。学習科学というものを勉強してきました。

(スライド6) 学習科学はアメリカでは結構メジャーですが、日本ではあまり知られていないという感じです。教育学は何を教えるか、どう教えるか、といった学問ですが、学習科学は、認知心理学や脳科学とか教育学とかがくっついたような学問で、人はどのように学ぶのかというところを中心に研究をしています。今日は学習

科学の関係の内容も少しご紹介させていただきながら、お話ができたらと思っています。

(スライド7) 去年、新著『教育改革を「改革」する』という本も出させていただきました。

最初に、お手元にある冊子のレジュメの中に入っている資料は、このとおりにない部分がたくさんあるので、いちいちメモを取っていただくよりも、終わった後に言っていたら送りますから、一生懸命メモを取っていただく必要はないということを念のために申し上げます。

(スライド8,9) 先ほど、申し上げた、学びの変革という、これは教育改革のビジョンですが、2014年に始めました。今から10年前、つまり中央教育審議会でもまだ現行の学習指導要領の諮問が始まったぐらいの頃に、広島は学びの変革と探究を立ち上げたわけですが、この検討の有識者会議をやっていたときに、ある企業の方からこんな話を頂きました。

(スライド10) これは今の教育の課題というか問題点を如実に表していると思ったので、ご紹介させていただきます。

ある企業で新入社員向けの研修をやったそうです。そしたら、新入社員の人たちは人事課から与えられたプログラムをものすごくいい成績でクリアしていき、社内からは今年の新入社員は優秀と評判になりました。ですが、研修後、いざ現場に出ると、新入社員の上司たちから人事課に「今年の新入社員は主体性が全くない」という内容のクレームが相次ぎました。人事課は新入社員の人たちに「なぜ、そうなったの?」と聞くと「だって、主体的になれと指示されていないですもん」と彼らは言ったそうです。冗談みたいな話だと思うでしょう。でも、こういう要素があると思っています。つまり、彼らは主体性の意味は知っており、ペーパーテストで「主体性はどれか」「主体性の定義を書きなさい」と言ったら書くことができるのです。書くことができるけれども、実際に行動できないし、さらに言うと、

今、主体的にならなければいけない場面なのか、場面ではないのかを自分が判断できない状態になっています。もしかしたら知っているけれども使えない、知っているけれども行動できないという状態が生まれているのではないかとというのが、学びの変革の1つの原動力になりました。

(スライド11) 学びの変革で何を目指したかという、4つの観、ビジョンの転換をしましょうということで、まず最初に授業観は教師中心ではなく学習者中心にしていきましょうという話です。そして、子ども観は受動的な聞き手ではなくて主体的な学び手として見ていきましょうということです。ゴールは、コンテンツ、教科書を端から端まで終わらせることではなくて、先ほどの話のように行動できるコンピテンシーを育成していきましょうという話です。そして4番目、これは学習科学的になりますが、行動主義的な学習観から社会構成主義的な学習観です。社会構成主義的な学習観というのは、下の※2つに書いていますが、知識やスキルを学習者自身が意味付け・価値付ける、活用、協働、対話、振り返りを重視した、実践的でダイナミックなカリキュラムを目指していきましょうというのが、この4つの転換を実現するのが学びの変革という形で10年間、取り組んできています。

(スライド12) 今日は、最初に「教育のこれから」を一緒に考える機会をつくりたいと思っています。最初に1つお願いがあるのですが、途中でペアワークが何回かあります。なので、この場でどなたとペアでやるのかを決めていただかないと、残り40分くらい独りぼっちで過ごすことになる時間が多くなるので、今、決めていただけますでしょうか。いいですか。どうしても2人が難しければ、3人でやってもらってもいいです。

(スライド13,14) では、始めていきます。最初に、一緒に来られた方はご存じの方も多いと思いますが、パートナーの方を知らない人もいる

かもしれませんので、お知り合いになってもらうのがいいかなと思っております。名前とお仕事と、どこから来たのか、最近ハマっていることの4つを1分間で、お互いに交流をしていただけますでしょうか。よろしくお願いします。

<話し合い>

はい、ありがとうございます。自己紹介がすごく盛り上がりますね。

(スライド15) 早速ですが、まず「教育のこれから」について、どういうふうに教育が進んでいくべきなのかを一緒に考えていきたいと思えます。

(スライド16) 教育改革のトレンド、とりわけ初等中等教育の世界はこういう話が盛り上がっているというところで、一緒に考えてみたいと思っています。3つ出します。まず1つ目、アクティブ・ラーニングです。これは、もともと高等教育の話ですから、ご存じの方はいらっしゃいますよね。まだ挙げておいてください。すみません、アクティブ・ラーニングを説明していただいてもいいですか。

会場1： 僕の理解は、仲間同士で頭の中をアクティブにすることです。

寺田： ありがとうございます。拍手をお願いします。では、2番目です。今のやつをやると手が挙がらなくなるんですけども、最初の開会のごあいさつで会長からもございましたが、探究的な学び、探究的な学習をご存じの方はいらっしゃいますか。先生、お願いします。

会場2： 生徒自らが課題を設定して学んでいく仕組みです。

寺田： はい、ありがとうございます。拍手をお願いします。

3番目をやると、もはや誰も挙がらなくなる気がするので、知らないという人はいらっしゃい

ますか。みんな知っているのですか。では、お願いいたします。

会場3： すみません。わかりません。

寺田： では、皆さんそれぞれ定義してみてください。この3つについて、今から考えてみたいと思っています。

（スライド17,18）ということで、お手元のワークシートに、アクティブ・ラーニングと探究的な学習と個別最適な学びのベン図がありますが、もう1個、こんなものがあると思います。Qubenaとか『走れメロス』が書いてあり、10個の学習活動の定義が書いてあります。学習活動の定義というか、これが学習活動です、というものが書いてあります。やっていただきたいのは、この10個の学習活動をワークシート1の中のどこにはまるかを考えてほしいです。つまり、アクティブ・ラーニングでもあるし、探究的な学習でもあるし、個別最適な学びという場合は真ん中に来ます。アクティブ・ラーニングだけで、他の2つは違うかなというときは1番上に来ます。全部違うとなったら、他のところに来ます。1番はここ、2番はここというのを書き入れていただく作業をやってほしいです。2分30秒お待ちしますので、できるところまでやってみてください。どうぞお願いします。

<記入中>

（スライド19）はい、ありがとうございます。途中でも大丈夫ですので、せっくなのでパートナーの方と、こんなふうに書きましたというのを共有してみましようか。2分くらいお待ちしますので、よろしくお願いします。

<話し合い>

はい、ありがとうございます。これは、なかなか難しいですね。なかなか難しく、今までいろいろな研修会とかでやらせてもらっていますが、以前、教育大学に呼んでいただいて、学生向けに授業をやらせていただいたときにこれを

やりました。大学生たちは「活動があって、グループワークを入れれば、全部アクティブ・ラーニングだと思っていました」みたいなことを言っている学生がすごく多かったです。そして、小・中学校の先生方向けにこれをやると「子どもによります」と言われます。ちなみに、大学の先生向けでやると「定義によります」と言われます。それぞれの色があるなと思いました。

（スライド20）この後、次のワークに行く前に、少し実験をしてみたいと思っています。先ほどの並んでいるやつがありますよね。その中の2番目『走れメロス』から私たちは何を学ぶことができるかを、少し聞いてみたいと思います。となったら、きっと会場の皆さまは構えると思いますが、会場には行かないので大丈夫です。誰に聞かかという、この人に聞きます。チャットGPTです。しかも、無料版の安いほうで聞いてみます。

（スライド21）『走れメロス』から私たちは何を学ぶことができますか」と聞くと、友情の力だ、信頼と約束の重みだ、自己犠牲の精神だ、のような感じで、これはそうだなと思うわけです。

だから、もう1個やってみようと思います。

（スライド22～24）「忘れられない出来事をテーマに、個人で作文を書きましょう」。忘れるも忘れないもチャットGPTにないのではないかと思いますよね。だって体験してないし、経験してないし、そんなものはできるわけがないと思いますよね。「忘れられない出来事をテーマに、小学生の作文を書いてください」と打つてみると、どうなるかという「僕の忘れられない出来事」というものが出るわけです。

去年の夏休みに家族で海に行ったときのことで。その日はとても晴れていて、青い空と海がどこまでも広がっていました。波がきらきらと光っていて、とても奇麗でした。僕は妹と一緒に砂のお城をつくったり、貝殻を集めたりして遊びました。二人で力を合わせて、何度も波に

流されないようなお城をつくろうと頑張りました。大きなお城ができたときは、妹が笑顔で「やったね」と言ってくれて、とてもうれしかったです。その後、お父さんとお母さんも一緒に海に入りました。お父さんが「波を乗り越えよう」と声をかけてくれて、みんなで大きな波に立ち向かいました。僕は最初怖かったけれども、家族みんなで手をつないで乗り越えたときは楽しくて、何度も笑ってしまいました。その日の夕方、海の向こうに沈む夕日がとても美しく、空が赤やオレンジ色に染まっていました。僕は、その景色を見ながら、この夏休みは一生忘れないだろうなと思いました。家族で一緒に過ごしたあの日は、僕にとって宝物のような思い出です。これからも家族と一緒に、色々な楽しい時間を過ごして、たくさんの思い出をつくりたいです。

これは、どうですか。小学生からこの作文が課題で出てきたらA評価を付けたくありませんか。ちなみに、面白いのは、入れるたびに違う答えが出ます。色々なものが出てきます。というので、色々な人が「国語の勉強とかやらないでいいのではないかな、作文も書いてくれるし」みたいなことを言います。ベンチャー企業の社長さんは「学校は、もう役割を終えたよね。オワコンだよね、学校なんてね」みたいなことを言ってきますよね。ということがあるので、少し聞いてみたんです。誰にか、というと、

(スライド25) この人です。

お手元に2枚の資料を入れているんです。縦の様式で右肩にAと書いてあるものとBと書いてあるものの2枚がありますよね。Aは何かというと、チャットGPTに、人工知能が発達するんだから学校での教科の学習は要らなくなるのではないかということについて、そうだという立場から論じてもらった答えです。Bは、そんなことないと反対する立場から論じてもらったものです。やっていただきたいのは、もう1個のワークシート、ワークシート2を出していただいて、

(スライド26) そこの上に四角い箱が2つある

と思うんですけども、その2つの箱のところにこれを書いてほしいです。チャットGPTの答えを参考にしながら、未来を見据えて、学校はこう変わっていかねばいけないというところを、ご自身の考えを書いていただきたいです。右側は、ここは変わってはいけないというのを、チャットGPTの答えを参考にしながらご自身の考えを書いてください。これは読む時間も必要だと思うので、3分くらい待たせていただきますから、その間に読んで、ご自身の考えを書いてみていただけますでしょうか。

<記入中>

はい、ありがとうございます。せっかくなので、これもパートナーの方とちょっと共有していただけますか。少し短くなって恐縮ですが、1分30秒くらいで、よろしく願います。

<話し合い>



はい、ありがとうございます。一応、これでワークは一段落です。ここから私なりに考えていることを少しご紹介させていただいて、今、考えていただいたことのヒントというか参考になるようなことも含めて、申し上げさせていただこうと思っています。

(スライド27) いきなり、すごく大きな話に移ります。日本中だけではなくて、アメリカで世界の教育改革を色々勉強してきましたが、そのときに学校教育が抱える課題は2つに集約できると思いました。その2つが何かというと、動機付けと転移です。モチベーションとトランスファーです。要するに、大きく言うと、勉強する気にならない、勉強したことが使えないというこ

の2つに集約できるかなと思っています。

(スライド28) 動機付けと転移というのは、学びのプロセスでいうと入口と出口の問題です。学びに入る時の動機付けの問題と、学びが終わった後にそれが使えるようになるのかという転移の問題で、この入口と出口に大きな課題があります。入口の顕著な例でいうと、特に初等中等教育の世界においては不登校です。

(スライド29) ご存じのとおり、不登校生徒の割合はどんどん伸びていて、今は小学校だと60人に一人くらいで、中学校だと17人に一人ということで、1クラスに2人くらいいるような感じです。民間の調査では5人に1人が不登校、あるいは不登校傾向の状態になってしまっているという動機付けの問題があります。

(スライド30) そして、もう一つは転移の問題があります。転移の問題はすごく分かりやすい例で言うと、今はだいぶ改善していると祈りたいですが、(スライド31) 平成19年度にやった全国学力学習状況調査の問題でいうと、左側の問題は単純に平行四辺形の面積を求める問題です。右側の問題は平行四辺形の面積を求めると、長方形の面積を求めて、どちらが広いのかを書きます。平行四辺形も直接のところに線が書いていない、少しひねった問題です。でも、使う知識はそんなに変わらないわけです。この2つの問題を平成19年度の全国学力学習状況調査でやったところ、正答率は左側が96%で、ほとんどみんな答えられていますけれども、右側になった瞬間に18%になってしまいました。学んだ内容がなかなか使えるようにならない、これくらいのひねり方でも使えるようにならないという課題があるわけです。

(スライド32, 33) そういう中で、今日、見て、一緒にやっていただいた、アクティブ・ラーニングや個別最適な学びなど、色々なものがあります。手法では、色々な議論や色々な手法の開発が進んでいますが、結局、この入口と出口は一言で言うと学びの価値付けに関する問題だと思っ

ています。つまり、子どもたちが、なぜこれを学ばなければいけないかをどれくらい分かっているのかということだと思います。

(スライド34) 学びを価値付けるにはどうしたらいいのか、これは世界中でこういう研究があります。いいことがあるとか、この知識はどんなときに役に立つとか、何が面白いかに教えてあげるとか、説明するというのは、やらないよりはやったほうが圧倒的にいいと思います。ですが、これだけだと不十分だと言われています。当たり前ですが、子どもたちが自分で見つけなければいけない、自分たちで発見することがすごく大事なのではないかと思っています。

(スライド35) 私は、これまでの教育とこれからの教育を比喩的な例で、これまでが電車型だったとしたら、これからの教育は自動車型になっていかなければいけないという話を広島でも先生方によく言っていました。大きな違いは、電車型のときは運転手が基本的には先生で、子どもたちは乗っているだけで、基本的には一方向で、1つの行き方しかありません。だから、時間配分さえ間違っていなければちゃんとゴールにはたどり着いたことになります。小学校が終わったら、駅で中学校の電車に乗り換える感じになって、高校を卒業して、あるいは大学を卒業した瞬間に「目的地です。皆さん、ご自由に好きなところへ行ってください」みたいな感じになります。そしたら、みんなはどこへ行ったらいいのか分からなくなって、路頭に迷ってしまいます。

それに対して、これからは自動車型になって、運転手は子どもたちになっていかなければいけない、ゴールへの行き方も無限大だし、途中でゴールも変わっていく格好にしていかなければいけないということだと思います。こういう話をすると、初等中等教育の先生方は「分かりました。任せればいいんですね」となるわけです。そうすると、ドライバーは子どもたちになっていますが、先生は車のドアを閉めて「はい、

行ってらっしゃい」といった感じになりがちです。でも、どこに行けばいいのかも分かっていない、どうやって行けばいいのかも分かっていないわけだから、ちゃんと助手席か後ろに乗ってあげなければいけないです。同乗者になって「どこに行くの?」「どうやって行きたいの?」と話してあげるべきです。それが、まさにファシリテーターとしての先生の役割になるかと思えます。

(スライド36) さらに言うと、学びの価値付けは文部科学省も当然意識はしていて、先ほど、やっていただいた個別最適な学びはその一環だと思います。日本の学校教育は、右側の画一的・同調的な学びだとよく言われてきました。集団が強調されていて、みんなと同じことをやることを強要されます。この画一的、同調的な学びを個別最適な学びプラス協働的な学びに持っていくというのが、令和の日本型教育答申で言われていた内容です。しかし、初等中等教育の世界を見てみると、そうではなく、孤立的な学びの方にいっていることが結構あります。Qubenaを渡して、ギガを渡して「どうぞ、それぞれでやってください」みたいな感じでやっているケースがあって、それを個別最適な学びと呼んでいます。それぞれが端末でドリル学習をやっているケースが結構見て取れます。

何が大事かという、個の意味においては一人一人の興味・関心と認知プロセスの尊重がすごく大事です。個別最適な学びは、指導の個別化と学習の個性化の二本柱に分かれますが、指導の個別化は結構やっています。でも、学習の個性化はなかなかできていません。そういったところで、一人一人の興味・関心をしっかり尊重していかないといけないです。集団を解体すればいいのかという、そういうことではないと思います。集団は集団で、集団での一体感と相互のケアが必要です。これが良さだと思います。この2つをちゃんと的確に捉えずに「個別最適な学びを文部科学省がやれと言っているし、教

育委員会もやれと言っているから、やらないといけないよね」という感じでやり始めて、先ほどみたいにやったりしています。僕はワークシート1のワークには、あまり意味が無いと思っています。しかし、学校ではやりがちです。「先生の今日の授業は個別最適だったかな」「でも、ちょっと違うかな」みたいな議論をしがちなんですけども、個別最適かどうかではなくて、個別最適な学び、協働的な学びで大事にしなければいけなかった、1人ひとりの興味・関心と、認知プロセスの尊重、集団での一体感と、相互のケアのこの部分があるか、なかったという視点で授業改善をやっていかなければいけないし、高校と大学がつながっていかなければいけないというふうに思っています。

(スライド37) そういう意味でいうと、子どもたちには、この2つの質問さえすれば大体分かると思っています。「何を学んでいるの?」と「何で学んでいるの?」という2つの質問です。これにどれくらいの子どもたちが答えられるかです。これは、大学生でも同じだと思います。「何を学んでいるの?」と聞いたときに、そのコンテンツの名前しか言えない、つまり「江戸時代です」とか、あるいは「平方根です」としか言えなかったら、それはそこに止まってしまっていることになります。「何で学んでいるの?」と言われたときに、最初のお話にもあったように「勉強しなければいけないので」「義務なので」「教科書に載っているの」「先生が言うので」「お母さんが言うので」みたいな感じでしか言えない子は、何で学んでいるのかが全然腑に落ちていないです。そうなると、ちょっとしたきっかけで不登校になるし、ちょっとしたきっかけで勉強嫌いになると思います。

(スライド38) そういう視点で見ると、自分の中での「核」がないと、意味をどんなに教えても、意義をどんなに教えても「これは大事だよ」「こんなところで役に立つよ」と言われても自分の中での学びの価値は描けないと思いま

す。探究とかキャリア教育は、これをいろいろな人との対話を通じて探していく旅路だと思っています。先ほどの自動車型のように、同じところをぐるぐるしたり、いろいろなところへ行ったりして、時間がかかってストレートに行かない。そういう状況の中で、手間も時間もかかるから、3年間で終わらせる、6年間で終わらせるではなくて、高校と大学がしっかり連携して、この学びを高校の先生も大学の先生も、同乗者になって、支援をしてあげるプロセスがすごく大事なのではないかと考えています。

(スライド39)最後に、教育改革のお話をさせていただきます。今日の趣旨のところ「トップダウンの教育改革は、なぜうまくいかないのか」という話を書きました。これは実際にアメリカの教育大学院で、教育改革の授業を取っていたときに「よくデザインされた教育改革は失敗した、または狙った成果が得られなかったという結果になることが多い。なぜ、そのような失敗が起こるのか説明してください」という問題が出たことがあります。これは、なかなか難しいですよ。一言では言えません。本当にそうなのか、よくデザインされているのだからうまく行っているのではないかという見方もできなくもないです。でも、往々にして失敗したとか、思ったとおりにならなかったとかというふうに言われたりします。

例でよく言われるのは、アメリカのNo Child Left Behind Actという、落ちこぼれ防止法というものがあります。学力調査で競わせれば、みんな伸びるでしょうという発想をしたときも、なかなかうまくいきませんでした。「なぜ、こういう失敗が起こるのか説明してください」というところで、答えは1つではないですが、大きなところで言われていたのは、トップダウンの改革は、先生一人一人の存在を軽視しないとできないということが基盤にあります。つまり、教育改革をトップダウンで下ろそうとしたときに、先ほどは子どもの目線で学びの価値付けと言いました

が、教育の価値付けを先生がするのではなくて、下ろしてくる人がすることになります。そうすると、説明責任が、教育改革をする人になるわけで、学校の先生に説明責任が行かなくなるわけです。でも、先生方は子どもたちに教育改革をやらなければいけないという難しさがあると思います。

(スライド40)そこで、当事者全員の“I”を大切にされた改革はどういうふうによればいいのかということになるわけです。ここでワークをやってもらおうと思っていたのですが、時間もないので飛ばします。



(スライド41)最後にこれだけ言いたかったのは、動機付けと転移の問題があります。動機付けと転移の問題というのは、学びの価値付けの問題で、学びの価値付けの旅をするのがキャリア教育と探究です。だから、高校と大学がつながっていかなければいけないのです。そして教育改革というのは、先生が教育の価値付けをするのを阻害してしまう可能性があるから難しいです。それでは、どういうふうに教育改革を進めていけばいいのかというところで、私なりに答えが集約されたのが自己決定理論という、学習科学の世界では非常にポピュラーな理論です。これだけ頭の中の片隅においていただけたら、それだけで私はここに来て良かったなと思います。

このSelf-Determination Theoryでは、3つのことが大事だと言われています。1つ目が自律性。2つ目が関係性と協働性です。そして3つ目が自己有能感のこの三本柱です。これ

は、もともと動機付けの理論として開発されたものですが、いろいろなところに使えると思います。

(スライド42) もうちょっとだけ具体的に言うと、教育改革をデザインする上で、あるいは学校の教育のいろいろな部分を改善していくときに、教育活動が先生方の創意工夫の余地が豊富にあって、言われたことをやるというだけではなくて、教科書を端から端までやるだけではなくて、先生方の創意工夫の余地が豊富にあります。つまり自律性があって、ほかの教師や専門家や管理職や地域の人を含めて、いろいろな人たちとの協働性・関係性があります。つまり相談できるし、一緒にできるし、困ったときは一人ではないという関係性があり、そして教育プロセスの開発やカリキュラムのデザインが自分自身の成長として実感できるようになっていけば、先生方は主体的に改善し続けていくだろうという考え方です。こういう教育改革をどうデザインできるのかが、行政にとっては非常に大きなチャレンジになってきます。

私も行政の人間なので、十分にできているかという、なかなか難しいです。なぜなら、基本的に教育改革は「ああすれば」「こうすれば」と言うから改革になるわけで、理論的に矛盾するわけです。「ああしないでください。でも……」みたいな感じの教育改革になるから、これは非常に難しいんですけれども。ただ、こういうところがすごく大事です。これが教育改革をデザインする上でのポイントになってくるのですが、ひるがえって考えてみると、子どもたちの視点から動機付けと転移の問題を考えると、同じことが言えるわけです。

(スライド43) つまり、学習活動が児童や生徒の創造や選択にあふれていて、ほかの児童や先生方たちの協働があって、自分自身の成長が実感できるものになっていけば、児童・生徒は主体的に学び続けるだろうと言えると思います。

これはアメリカでも言われていましたし、今はNITSも言っていますけれども、教育というのは関係性の中でできあがるものです。しかも、関係性というのは相似形なので、伝播します。つまり、教育委員会と学校の関係と、校長と教員の関係と、教員と子どもたちの関係は大体同じような感じになります。教育委員会が学校に、このスライドのような教育改革をデザインすることができれば、教員もスライドのような教育活動をデザインできるようになるかもしれないというか、できるようになる可能性が高いので、そのための支援をしっかりとやっていかなければいけないということになるのではないかと思います。具体的にどうすればいいのかという話は、この後の午後の討論のところで皆さんと一緒に考えていければと思います。学校での実践の具体については、この後、酒井先生がご紹介してくれると思いますので、私のお話はここで終わらせていただこうと思います。

(スライド44) Facebookの友だちのリクエストは、そこにQRコードを張っていますから、送っていただければいくらでも承認いたします。今日は、どうもありがとうございました。

スライド 1

2024年11月16日
第22回高大連携教育フォーラム

※資料のうち、見解に係る内容は、所属機関や文部科学省の公式見解ではなく、個人としての意見です。

スライド 2

自己紹介

- 1981年、神奈川県秦野市出身
- 2004年、早稲田大学法学部卒業→文部科学省入省
(文部科学省での主な仕事)
 - ・ 競技スポーツ課 企画係長 《東京オリンピック招致》
 - ・ 内閣官房 (総理大臣官邸) 主査 《総理・官房長官のサポート》
 - ・ 教育改革推進室 専門調査官 《教育改革の司令塔》

スライド 3

自己紹介

- 2014年、広島県教育委員会に出向 (学びの変革推進課長)
(2017年、文部科学省を退職し、広島県に転籍)
 - ・ 「学びの変革」の立ち上げ
 - ・ 県立広島観智学園中高校の創設 (公立全寮制IBインターナショナルスクール)
 - ・ 高校生の海外留学促進 (6年間で6倍→全国1位)
 - ・ ふるさと納税を活用した寄付金制度の創設 (これまで4億円を超える寄附)
 - ・ 高校入試制度改革 (自己表現の導入、特色枠の設定、調査書の簡素化等)

スライド 4

自己紹介

- 2021年、立命館アジア太平洋大学 (APU) 特別研究員
- 2021年8月～2022年12月、ミシガン大学教育大学院修士課程
(専攻: 学習科学)
(Design and Technologies for Learning Across Culture and Contexts : DATL)
- 広島県総務局付課長・福山市教育委員会学校教育部参与 (現在)

スライド 5

ミシガン大学

- アメリカで最も歴史のある公立 (州立) 大学。
- 教育大学院は、全米トップの評価。

1位 ミシガン大・コロロニア大 (同率)、
3位 ノースウエスタン大・ペンシルバニア大・ウィスコンシン大、
6位 ヴァンダービルト大、7位 スタンフォード大、
8位 UCLA、9位 ハーバード大・ニューヨーク大
(U. S. News | 2023-2024 Best Graduate Schools in Education))

スライド 6

在籍プログラム

Design and Technologies for Learning Across Culture and Contexts (DATL)

教育 × イノベーション

(専攻)

- ・ 学習科学の理論と実践 (「人はどのように学ぶのか?」)
- ・ 効果的なテクノロジー (ICT) の活用
- ・ 変革を実現する組織マネジメント
- ・ カリキュラム・学習環境のデザイン

スライド 7

新著『教育改革を「改革」する』
2023年12月15日発売

学校をもっともっと「自由な場」に

スライド 8

自己紹介

- 2014年、広島県教育委員会に出身（学びの変革推進課長）
（2017年、文部科学省を退職し、広島県に転籍）
 - ・ 「学びの変革」の立ち上げ
 - ・ 県立広島淑智学園中高の創設（公立全寮制IBインターナショナルスクール）
 - ・ 高校生の海外留学促進（6年間で6倍→全国1位）
 - ・ ふるさと納税を活用した寄附金制度の創設（これまで4億円を超える寄附）
 - ・ 高校入試制度改革（自己表現の導入、特色枠の設定、調査書の簡素化等）

スライド 9

自己紹介

- 2014年、広島県教育委員会に出身（学びの変革推進課長）
（2017年、文部科学省を退職し、広島県に転籍）
 - ・ 「学びの変革」の立ち上げ
 - ・ 県立広島淑智学園中高の創設（公立全寮制IBインターナショナルスクール）
 - ・ 高校生の海外留学促進（6年間で6倍→全国1位）
 - ・ ふるさと納税を活用した寄附金制度の創設（これまで4億円を超える寄附）
 - ・ 高校入試制度改革（自己表現の導入、特色枠の設定、調査書の簡素化等）

スライド 10

ある企業での出来事

ある企業で、新入社員向けの研修を実施しました。

新入社員たちは、人事課から与えられたプログラムを素晴らしい成績でクリアしていき、社内からは、「今年の新入社員は、例年になく優秀だ」と評判になりました。

しかし、研修後、いざ現場に出ると、上司たちから人事課にクレームが相次ぎます。クレームの内容は、「今年の新入社員は、主体性がまったくない」。

人事課が新入社員たちを呼び出して問い詰めたところ、彼らはこう言いました。

「だって、『主体的になれ』って、指示されてません。」

スライド 11

| 基本認識 | 従来の認識 | 今の認識 | 質の保証 |
|--------------------------------|-------------------------------------|------|------------|
| 「学びの変革」が目指す、「4つの『観』の転換」 | | | |
| (1)視座観 | 教師中心 | から | 学習者中心 |
| (2)学び観 | 受動的な聞き手 | から | 主体的な学び手 |
| (3)ゴール観 | コンテンツ（内容）の網羅 | から | コンピテンシーの育成 |
| (4)学習観 | 教科書の図表完了（知っている）ではなく、生徒の「できる」「使える」に～ | | |
| | 行動主義的* | から | 社会構成主義的** |

～単なる知識の増殖ではなく、他者との関わり、社会の中で学びを通じて、学習者が知識を自ら構築～

* 旧来の「ドリル学習」における学習観。暗記中心。1つの知識の習得が目的。授業に動員された生徒は受動的なカリキュラム。

** 知識やスキルを学習者自身が獲得し、構造化し、活用、発展、対話、振り返りを通じて深層的に理解した実践的・創造的・主体的なカリキュラム。

スライド 12

まずは、「**教育のこれから**」について
一緒に考えてみましょう！

スライド 13

と、その前に・・・

**パートナーの方と「お知り合い」に
なりましょう！**

スライド 14

自己紹介タイム

- ① お名前
- ② お仕事
- ③ どこから来たか（お住まい）
- ④ 最近ハマっていること

スライド 15

では、「教育のこれから」について
一緒に考えてみましょう！

スライド 16

教育改革の「トレンド」

- アクティブ・ラーニング
- 探究的な学習
- 個別最適な学び

スライド 17

ワークシート1

アクティブ・ラーニング

探究的な学習

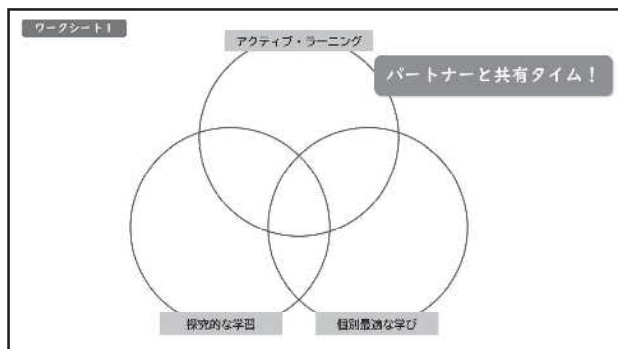
個別最適な学び

スライド 18

以下の学習活動は、「ワークシート1」の、どこに位置付くと思いますか？

- ① Qubena (AIドリル) を活用し、児童生徒の習熟度に応じた学習（自習）を行う
- ② 「『忘れメロス』から私たちは何を学ぶことができるか」について、個人で考えた後に、小グループで話し合う
- ③ 小グループで理科の実験を行い、個人でレポートにまとめる
- ④ タブレット端末を活用し、「明治維新は現在の日本社会にどのような影響を与えているのか」について、個人で調べる
- ⑤ 興味のあるNHK for Schoolの動画を個人で選択して視聴し、感想を記入する
- ⑥ 教師が設定したテーマについて、小グループで学習（研究）活動を行い、最後は全員の前で発表する
- ⑦ 「忘れられない出家寺」をテーマに個人で作文を書き、小グループで話し合う
- ⑧ 「遊性雨の環境への影響」について、タブレット端末を活用して個人で情報を収集・整理し、クラウド上にアップされた成果物を互いに参照しながら、小グループで話し合う
- ⑨ 興味・関心に基づき、個人で学習（研究）活動を行い、最後はレポートにまとめる
- ⑩ 地域の観光スポットに行き、来訪した外国人観光客に対して、英語で感想を尋ねる

スライド 19



スライド 20

- 以下の学習活動は、「ワークシート1」の、どこに位置付くと思いますか？
- ① Qubena (AIドリル) を活用し、児童生徒の習熟度に応じた学習 (自習) を行う
 - ② 『『走れメロス』から私たちは何を学ぶことができるか』について、個人で考えた後に、小グループで話し合う
 - ③ 小グループで理科の実験を行い、個人でレポートにまとめる
 - ④ タブレット端末を活用し、「明治維新は現在の日本社会にどのような影響を与えているのか」について、個人で調べる
 - ⑤ 興味のあるNHK for Schoolの動画を個人で選択して視聴し、感想を記入する
 - ⑥ 教師が設定したテーマについて、小グループで学習 (研究) 活動を行い、最後は全員の前で発表する
 - ⑦ 「忘れられない出来事」をテーマに個人で作文を書き、小グループで話し合う
 - ⑧ 「読書用の環境への影響」について、タブレット端末を活用して個人で情報を収集・整理し、クラウド上にアップされた成果物を互いに参照しながら、小グループで話し合う
 - ⑨ 興味・関心に基づき、個人で学習 (研究) 活動を行い、最後はレポートにまとめる
 - ⑩ 地域の観光スポットに行き、来訪した外国人観光客に対して、英語で感想を尋ねる

スライド 21

- 以下の学習活動は、「ワークシート1」の、どこに位置付くと思いますか？
- ① Qubena (AIドリル) を活用し、児童生徒の習熟度に応じた学習 (自習) を行う
 - ② 『『走れメロス』から私たちは何を学ぶことができるか』について、個人で考えた後に、小グループで話し合う
 - ③ 小グループで理科の実験を行い、個人でレポートにまとめる
 - ④ タブレット端末を活用し、「明治維新は現在の日本社会にどのような影響を与えているのか」について、個人で調べる
 - ⑤ 興味のあるNHK for Schoolの動画を個人で選択して視聴し、感想を記入する
 - ⑥ 教師が設定したテーマについて、小グループで学習 (研究) 活動を行い、最後は全員の前で発表する
 - ⑦ 「忘れられない出来事」をテーマに個人で作文を書き、小グループで話し合う
 - ⑧ 「読書用の環境への影響」について、タブレット端末を活用して個人で情報を収集・整理し、クラウド上にアップされた成果物を互いに参照しながら、小グループで話し合う
 - ⑨ 興味・関心に基づき、個人で学習 (研究) 活動を行い、最後はレポートにまとめる
 - ⑩ 地域の観光スポットに行き、来訪した外国人観光客に対して、英語で感想を尋ねる

スライド 22

- 『走れメロス』から私たちは何を学ぶことができますか？
- 『走れメロス』から私たちは、友情、愛、そして自己犠牲の大切さを学ぶことができます。この物語では、メロスが罰役アリオン・ティウスとの約束を果たすために、命を犠牲にする覚悟を決めています。
- ちなみに以下の点です：
1. 友情の力：メロスが罰役アリオン・ティウスに救われるのは、真の友情が力になるからです。私利私欲ではなく、包摂の心で行動することの重要性が伝わります。
 2. 自己犠牲の偉大さ：メロスが自分の命を犠牲にする覚悟を決めるのは、自己犠牲がどれほど偉大であるかを示しています。私利私欲ではなく、包摂の心で行動することの重要性が伝わります。
 3. 自己犠牲の偉大さ：メロスが自分の命を犠牲にする覚悟を決めるのは、自己犠牲がどれほど偉大であるかを示しています。私利私欲ではなく、包摂の心で行動することの重要性が伝わります。
- この経験、現代の私たちにも共通するテーマを持っており、友情や友情の重要性、そして時に犠牲のために自分を犠牲にすることの意義を伝えてくれます。

スライド 23

- 以下の学習活動は、「ワークシート1」の、どこに位置付くと思いますか？
- ① Qubena (AIドリル) を活用し、児童生徒の習熟度に応じた学習 (自習) を行う
 - ② 『『走れメロス』から私たちは何を学ぶことができるか』について、個人で考えた後に、小グループで話し合う
 - ③ 小グループで理科の実験を行い、個人でレポートにまとめる
 - ④ タブレット端末を活用し、「明治維新は現在の日本社会にどのような影響を与えているのか」について、個人で調べる
 - ⑤ 興味のあるNHK for Schoolの動画を個人で選択して視聴し、感想を記入する
 - ⑥ 教師が設定したテーマについて、小グループで学習 (研究) 活動を行い、最後は全員の前で発表する
 - ⑦ 「忘れられない出来事」をテーマに個人で作文を書き、小グループで話し合う
 - ⑧ 「読書用の環境への影響」について、タブレット端末を活用して個人で情報を収集・整理し、クラウド上にアップされた成果物を互いに参照しながら、小グループで話し合う
 - ⑨ 興味・関心に基づき、個人で学習 (研究) 活動を行い、最後はレポートにまとめる
 - ⑩ 地域の観光スポットに行き、来訪した外国人観光客に対して、英語で感想を尋ねる

スライド 24

- 「忘れられない出来事」をテーマに小学生の作文を書いてください。
- これらの作文を参考にしてみてください。
- 『忘れられない出来事』。思い出の宝庫にたどり着いたときのことです。その日はとても晴れて、青い空が目に映り込んでいました。思い出の宝庫にたどり着いたときのことです。その日はとても晴れて、青い空が目に映り込んでいました。
- 『忘れられない出来事』。思い出の宝庫にたどり着いたときのことです。その日はとても晴れて、青い空が目に映り込んでいました。思い出の宝庫にたどり着いたときのことです。その日はとても晴れて、青い空が目に映り込んでいました。
- 『忘れられない出来事』。思い出の宝庫にたどり着いたときのことです。その日はとても晴れて、青い空が目に映り込んでいました。思い出の宝庫にたどり着いたときのことです。その日はとても晴れて、青い空が目に映り込んでいました。
- 『忘れられない出来事』。思い出の宝庫にたどり着いたときのことです。その日はとても晴れて、青い空が目に映り込んでいました。思い出の宝庫にたどり着いたときのことです。その日はとても晴れて、青い空が目に映り込んでいました。
- 『忘れられない出来事』。思い出の宝庫にたどり着いたときのことです。その日はとても晴れて、青い空が目に映り込んでいました。思い出の宝庫にたどり着いたときのことです。その日はとても晴れて、青い空が目に映り込んでいました。
- 『忘れられない出来事』。思い出の宝庫にたどり着いたときのことです。その日はとても晴れて、青い空が目に映り込んでいました。思い出の宝庫にたどり着いたときのことです。その日はとても晴れて、青い空が目に映り込んでいました。
- 『忘れられない出来事』。思い出の宝庫にたどり着いたときのことです。その日はとても晴れて、青い空が目に映り込んでいました。思い出の宝庫にたどり着いたときのことです。その日はとても晴れて、青い空が目に映り込んでいました。
- 『忘れられない出来事』。思い出の宝庫にたどり着いたときのことです。その日はとても晴れて、青い空が目に映り込んでいました。思い出の宝庫にたどり着いたときのことです。その日はとても晴れて、青い空が目に映り込んでいました。

スライド 25

ChatGPT

ChatGPTの出力結果（A）

ChatGPTの出力結果（B）

A: 「人工知能が発達するのだから、学校での教科の学習は不要になる」という主張に **賛成** の立場から論じてください。

B: 「人工知能が発達するのだから、学校での教科の学習は不要になる」という主張に **反対** の立場から論じてください。

スライド 26

ワークシート2

未来を見据えて、
学校が変わるべき点を
書いてください。

未来を見据えて、
学校が変わるべきではない点を
書いてください。

スライド 27

日本（世界中）の学校教育が抱える課題

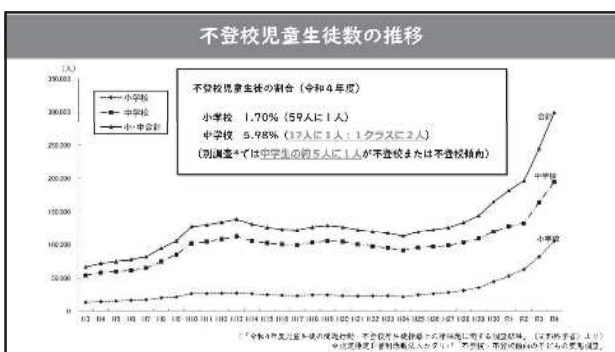
① 動機付け (Motivation)

② 転移 (Transfer)

スライド 28



スライド 29



スライド 30



スライド 31

【平成19年度「全国学力・学習状況調査」】

A問題

品物の形状と求めた値を記入してください。

① 厚み0.8cm

正答率 **96%**

B問題

② ③から⑤の面積の総和は長さの何倍ですか。

正答率 **18%**

※平成27年度中学校教員研修 第1期（平成27年4月25日） 上智大学・企業正統教員研修会資料より

スライド 32

日本（世界中）の学校教育が抱える課題

① 動機付け (Motivation)

入口

アクティブラーニング
個別最適な学び
PBL
プログラミング教育
STEAM教育
協調学習
単元内自由進度学習
and so on...

出口

② 転移 (Transfer)

スライド 33

日本（世界中）の学校教育が抱える課題

① 動機付け (Motivation)

入口

「学びの価値付け」に関する問題

出口

② 転移 (Transfer)

スライド 34

学びを「価値付ける」には？

➤ 学びの「価値」を説明する??

- ・ 学ぶと、どんなよいことがあるのか。
- ・ この知識はどんな時に役に立つのか。
- ・ これの何が面白いのか。

➤ (教師の支援のもと) 子どもたちが自ら発見する!!

スライド 35

「これまでの教育」と「これからの教育」

これまでの教育

電車型

(運転手は先生⇔子どもたちは乗客)
(ゴールへの行き方は一通り)
(ゴールは予め決まっている)

これからの教育

自動車型

(運転手は子どもたち+先生は同乗者)
(ゴールへの行き方は無限大!)
(途中でゴールも変更可!)

スライド 36

個と集団

| 個 | 集団 |
|----------------------------|--------------------|
| 個別最適な学び | 協働的な学び |
| 孤立的な学び ← | 画一的・同調的な学び |
| 一人ひとりの興味・関心と、 認知プロセスの尊重 | 集団での一体感と、 相互のケア |

スライド 37

学びの「価値付け」に関する「2つの質問」

“何を学んでいるの？”

“何で学んでいるの？”

スライド 38

この「旅」は、時間と手間（試行錯誤）が必要
だからこそ、高次の連携が不可欠

↑

探究・キャリア教育は、
(教師・仲間/自己/材との)対話を通じてこれを探す旅

↑

自分の中の「核」が無いと、
学びの「価値」は描けない

スライド 39

教育大学院でのテスト問題

よくデザインされた教育改革は、「失敗した」又は「狙った成果が得られなかった」という結果に終わることが多い。
なぜそのような「失敗」が起こるのか、説明してください。

In many instances, well-designed reforms 'fail' and are said 'not to work as planned.'
Develop an explanation for why these 'failures' happen?

“I”の不存在

スライド 40

当事者全員 (子どものみならず教職員も)の“I”
を大切にした改革は、どうすれば可能か？

スライド 41

解決のヒント：「自己決定理論」

Self-Determination Theory

① 自律性

② 関係性・協働性

③ 自己有能感

スライド 42

解決のヒント：「自己決定理論」

教育活動が、

教師の創意工夫の余地が豊富にあり（自律性）、
他の教師や専門家等との協働があり（関係性・協働性）、
自身の成長を実感できるものであれば（自己有能感）、
教師は主体的に改革（改善）し続けるだろう。

スライド 43

解決のヒント：「自己決定理論」

学習活動が、

- 児童生徒の創造や選択が溢れており（自律性）、
- 他の児童生徒や教師等との協働があり（関係性・協働性）、
- 自身の成長を実感できるものであれば（自己有能感）、

児童生徒は主体的に学び続けるだろう。

スライド 44

～ご清聴ありがとうございました～





←Facebookの友達リクエスト、
どうぞお気軽に！